

ソーシャルビジネス・ネットワーク



2015年10月1日～2016年3月31日

年次レポート

(事業活動、収支報告書)

SBN

ANNUAL REPORT
Social Business Network (SBN)

「ソーシャルビジネス・ネットワーク」は設立から5年が経ちました。経済成長のみを至上目的とする社会は、物質的豊かさや便利な社会を実現してきましたが、一方で競争の激化や格差の拡大、コミュニティの崩壊、環境破壊などの弊害も生み出してきました。企業といえども、いつまでも自分の利益だけを追求することは許されなくなりました。企業活動を通じて、社会にいかに関与するか、社会的責任をいかに果たしていくかが問われる時代になったことを痛感します。

2011年の東日本大震災からも5年が経ちました。かつて被災地の人々は、「私たちのことを忘れないでね」と言っていました。しかし、あれほどの原発事故を起こしても、記憶の風化はすでに始まっています。川内原発が再稼働されました。この後も、原発は次々と再稼働されようとしています。3. 11で問われた文明のあり方、日本社会のあり方が大して反省もされないまま、再び効率と生産性のみを追いかける社会に戻っていかようとしているのです。ここに、ソーシャルビジネスとして果たすべき役割がないのだろうかと考えてしまいます。

今年4月の熊本地震も大変な災害でした。いまだに1万人もの方が避難生活を送っています。こうした災害時に企業がどのような支援ができるかもまた、ソーシャルビジネスの役割であります。大きな災害のときは国や行政だけでは復興に手が回らないことがあります。企業が、いち早く地元の NPO と連携したり、企業同士が協力し合って復興に力を注ぐことはとても大事なことです。

企業の社会的責任、社会貢献はもはや「謳い文句」ではなく、実践が求められる言葉となりました。企業がどのような行動をするかによって社会は大きく変わります。とくに、福祉、環境、教育、貧困、差別、平和のような分野に企業が積極的に働きかけることができれば、社会はもう少し住みよい社会になるでしょう。

明治時代は英語が次々と日本語に翻訳された時代でした。英語の right は、福沢諭吉によって当初、「権理」と訳されました。「理」は、ことわり、正しいこと。すなわち、正義を行うには「権」、力が必要と言う意味で「権理」と訳されたのです。しかし、いつの間にか「権理」は「権利」に置き換えられる。正義を行うことから、「利益」を得る力に変わってしまったのです。

また、development は「開発、発展」などと訳されています。かつて日本では、「開発、発展」の名のもとに乱開発や環境破壊が進んだことがありました。タイ語では、development を「パッターナー」と訳していました。パッターナーは、「開発、発展」という意味もありますが、同時に「調和」という意味もあわせ持つ言葉でした。企業が自分だけの利益を追求する「権利」を主張するのではなく、社会的正義を実現するための「権理」を行使すること、そして「開発、発展」の中に「調和」を組み入れること、そうしたことがこれからの時代に求められているのだと思います。

ソーシャルビジネスの波は、いまや国境を越えて世界中に広まろうとしています。日本で、世界のモデルとなるようなソーシャルビジネス、社会的企業を根付かせ育成していきたいと思えます。そして、そのネットワークをしっかりと社会に張り巡らしていきたい。志を同じくする企業、団体、個人が知恵を結集し、つながり、力を合わせていくものとして「ソーシャルビジネス・ネットワーク」は存在しています。多くの皆さまが当団体に参加してくれますことを心から願います。



一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク
代表理事 藤田和芳

目次

I.	事業報告	3
1	今期戦略方針の振り返り	3
1.1	事業に関する方針	3
1.2	組織運営に関する方針	3
2	個別事業報告	4
2.1	SHIFT lab 事業	4
2.2	社会的起業家 100 人インタビュー	6
2.3	働き方委員会	7
2.4	補助金を活用した事業	7
3	組織運営報告	9
3.1	会員について	9
3.2	広報・PR	9
3.3	定例会議	10

I. 事業報告

1 今期戦略方針の振り返り

理事会及び社員総会での承認のもと、以下の計画に基づき、事業推進、組織運営を図ってきた。

1.1 事業に関する方針

“ボランティア元年”と呼ばれた阪神淡路大震災から20年、“ソーシャルビジネス元年”を掲げた東日本大震災から間もなく5年。震災復興において、被災地・陸前高田を中心に地元との協働によるプラットフォーム形成や復興拠点建築をもとにして、ソーシャルビジネスによる復興事業のインキュベーションや、インターンシップ等による復興人材の育成、住民と官民連携を意図した復興まちづくりの構想立案など、東北ならではの人と人との絆や自然と共生する智慧などを再評価し、改めて“復興”を有形無形に“かたち”にしてみる創造的復興のトライアルを行ってきた。

今後、そのトライアルを経験値として、〈ビジョン1〉「この間に世界から改めて注目された絆と智慧に基づく社会的行動動機や社会的報酬による精神的自立を深め、改めて資本主義的な利益主導型の生き方・働き方ではない、利他・贈与の精神に根差したソーシャルなワークライフスタイルが心地よいと感じる生き方・働き方で共創/協働する“ソーシャルキャリア”豊かな人財を増やしていく」、そして、そのような人材が活躍するような、〈ビジョン2〉「地域独自の社会的共通資本と価値観に基づくバリューチェーンによるソーシャルビジネスの産業創生や、共感/信頼による自律分散組織＝アソシエーション型の住民・事業者自治の実験/実現を図ることを、地域経営における自律的な新社会システムの再構築という位置づけの“ソーシャルタウン・モデル”として全国に水平展開していく」、この2つのビジョンを設立5年を期して新たな原点として表明するステートメントとし、事業の展開を図る。

具体的には、ヒトの生き方・働き方に新たな社会的な貢献と価値を積み重ねていく“ソーシャルキャリア”をかたちにする“仕事体験”の窓口(ポータル)と、そのヒトの力で社会課題をビジネスにより解決する自律/自治型地域経営のマチ“ソーシャルタウン”をかたちにする“社会実験”を導く道案内(インタープリテーション)を提供することを目的とした「SHIFT lab」事業を展開することとし、その準備を進める。

1.2 組織運営に関する方針

中期的な考え方として、SBNとしての事業収益構造について、7割補助金等行政予算、3割自主事業(会費含む)を目指す。

2 個別事業報告

2.1 SHIFT lab 事業

6月1日のプレオープン、6月28日の本格オープンを目指した開発及び準備を行った。

【事業推進スケジュール】※4月以降は次年度予定



【関係者とのミーティング】

SHIFT lab のサービスインに向けて、以下の関係者とのミーティングを行った。

(会議日程)

10月5日(月)	石田達也フェロー、濱口敏行常任顧問
10月6日(火)	風見正三アドバイザー
10月8日(木)	鈴木亨理事
10月19日(月)	更家悠介常任顧問
10月20日(火)	山田裕子理事、高津玉枝フェロー
10月21日(水)	川北秀人理事、池内計司理事
10月26日(月)	秋尾晃正フェロー
10月29日(木)	古野隆雄顧問、古賀敦之フェロー、関根健次フェロー、杉本利雄フェロー、濱砂清フェロー、(東関東馬事高等学院 代表)

11月2日(火)	村田弦也フェロー
2015年11月4日(火)	(企業メセナ協議会 代表)
11月9日(月)	辻井隆行顧問(代理)、小出浩平フェロー
11月11日(水)	坂本文武アドバイザー
11月13日(金)	高木晴光フェロー
11月16日(月)	染谷ゆみフェロー
11月17日(火)	宮治勇輔フェロー
11月25日(火)	中村陽一常任顧問、菊池貞雄フェロー
11月27日(金)	エディ操理事
12月2日(水)	堤香苗フェロー
12月3日(木)	原田勝広理事
12月11日(金)	菊池貞雄フェロー
12月15日(火)	飯島博フェロー
12月16日(水)	(NPO 法人市民科学研究室)
12月18日(金)	山口亮三フェロー
12月22日(火)	(有限会社ネパリ・バザーロ)
12月24日(木)	宮城治男理事
12月25日(金)	(NPO 法人ピッキオ)
2016年1月6日(水)	(株式会社イータウン)
1月15日(金)	(NPO 法人えがおつなげて)、(浅野令子氏)
1月25日(月)	渡邊幸義常任顧問(代理)
2月3日(水)	林眞一フェロー
2月9日(火)	高津玉枝フェロー、(NPO 法人ばれっと)
2月10日(水)	畦地履正フェロー
2月12日(金)	(NPO 法人ピアサポートネットしぶや)
2月16日(火)	鈴木亨理事、塩島義浩フェロー
2月17日(水)	小黒一三フェロー
2月27日(土)	株式会社フェリシモ「神戸学校」プレ体験
2月28日(日)	熊野英介副代表理事
3月4日(金)	サラヤ株式会社人事担当者
3月7日(月)	高津玉枝フェロー
3月10日(木)	秋尾晃正フェロー
3月14日(月)	海津歩常務理事
3月24日(木)	海津歩常務理事、小野打恵フェロー
3月28日(月)	秋尾晃正フェロー
3月29日(火)	(有限会社ネパリ・バザーロ プレー日職場体験)

3月30日(水)	パタゴニア日本支社 人事担当者
----------	-----------------

【株式会社富士ゼロックス総合教育研究所との連携】

株式会社富士ゼロックス総合教育研究所との連携により、共催という形で、マルチクライアントによるフィールドワークワークショップを展開した。

- 事業名: 事業創造フィールドワークワークショップ～異業種交流×フィールド検証・分析による共創実行モデルを描く
- 特徴: 株式会社富士ゼロックス総合教育研究所、一般社団法人マーケティング共創協会(MCCA)、一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワークの三社が連携し、実行推進力と展開可能性を高めたプログラム
- 日程及び実施内容: 12月5日(土)～6日(日)@陸前高田(仮説検証、フォーカスエリア選定、アイディエーション)、1月20日(水)@東京(データ収集/分析、シナリオライティング)、2月11日(木)@東京(試作/試行、価値/実行検証)、3月5日(土)@東京(レビュー、トライアル計画立案)

【コーディネーター会議】

プログラム企画開発や運営をサポートする有償サポーターである「コーディネーター」との会議を行い、「ワンデイ・シフト」サービスを中心にプログラム開発を行った。

(会議日程)

11月25日(水)、11月27日(金)、12月16日(水)、1月7日(木)、2月2日(火)、3月3日(木)、3月28日(月)

開催時間は19時～21時

2.2 社会的事業者 100 人インタビュー

川北秀人理事発案のもとで展開している「社会事業者 100 人インタビュー」もほぼ半数を開催。今後も 100 人へのインタビュー実現に向け、継続展開を図る。

【実施報告】

回	開催日時	開催場所	ゲスト	参加人数
第 43 回	2015 年 10 月 21 日 (水)	ETIC. ソーシャルベンチャー・ハビタット	森山誉恵氏(特定非営利活動法人 3keys 代表理事)	12 人
特別企画	2015 年 10 月 25 日 (日)	山形県内会議室 (非公開)	菅原弘紀氏(株式会社山形県自動車販売店リサイクルセンター 専務取締役、特定非営利活動法人山形県自動車公益センター 専務理事)	
第 44 回	2015 年 11 月 13 日 (金)	SBN 事務局	高木晴光氏(特定非営利活動法人ねおす 理事長)	3 人
第 46 回	2015 年 12 月 2 日 (木)	株式会社クlean会議室	藺田綾子氏(株式会社クlean 代表取締役)	8 人
第 47 回	2016 年 3 月 14 日 (月)	日本財団	天野秀昭氏(特定非営利活動法人プレーパークせたがや 理事)	18 人

2.3 働き方委員会

ソーシャルビジネス・タウン創生のための応援的な仲間づくりの場。「社会的課題分野」、「手法」、「地域(場所)」など、参加者の興味領域別のコミュニティ活動を、今期は「働き方委員会(障がい者雇用やダイバーシティという「社会課題分野」を対象としたコミュニティ)」として展開した。

【実施報告】

	開催日	検討内容
第 30 回	2015 年 10 月 22 日(木)	3 回のケーススタディの振り返りと、渋谷区に提案する渋谷モデルの内容に関する検討
第 31 回	2015 年 11 月 9 日(木)	「就労訓練事業(中間的就労)」等における社会的企業の役割及びインセンティブに関する厚生労働省・生活困窮者自立支援室との意見交換
第 32 回	2015 年 12 月 15 日(火)	今後の委員会活動の方向性に検する検討
第 33 回	2016 年 1 月 8 日(金)	4 月からスタート予定の新时期事業との関わりも含めた、今後の運営方針に関する議論
第 34 回	2016 年 2 月 12 日(金)	委員会としてこれまで連携してきた NPO 法人「ピアサポートネットしぶや」と、今後の渋谷フィールドでの取組みの方向性に関する意見交換。今回より、メンバー有志が関わる分科会的な位置づけとしてのプロジェクト・ベースでのアクションとして展開。

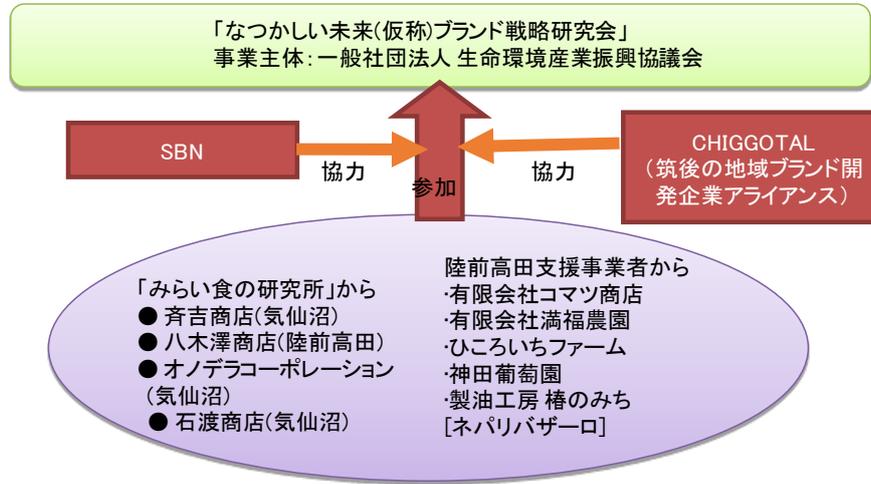
(主な開催時間: 19:30~21:00、主な開催場所: SBN 会議室)

2.4 補助金を活用した事業

ソーシャルビジネス・タウン創生のための推進組織。東京や全国の SB 事業者・関係者と地域のプロデューサー・チームが協働する産官学民のセクターを超えた、クラスター推進を行う組織をサポートする形での事業展開を図った。

具体的には、岩手県陸前高田市にある一般社団法人 生命環境産業振興協議会へ協力する形で、「平成27年度地域経済産業活性化対策費補助金(工業品等に係るビジネスマッチング・商品開発支援事業)〔平成 27 年 6 月 3 日~平成 28 年 3 月 31 日〕東北経済産業局」、および「平成26年度補正予算『地域イノベーション協創プログラム事業(地域資源活用ネットワーク形成支援事業)』〔平成 27 年 6 月 23 日~平成 28 年 1 月 31 日〕経済産業省」の交付を受け、前者は地域ブランドのアソート商品開発を、後者は旅行客ひいては継続来訪、二拠点居住、移住者を増やしていくための地域ストーリー開発を行った。

【「平成27年度地域経済産業活性化対策費補助金(工業品等に係るビジネスマッチング・商品開発支援事業)」事業概要、及び開発したブランド】



【「平成26年度補正予算『地域イノベーション協創プログラム事業(地域資源活用ネットワーク形成支援事業)』事業概要】

「『結』のツアーが築く、“ツーリスト・ルネサンス、東北ルネサンス”事業

岩手県陸前高田市、釜石市、宮城県南三陸町

一般社団法人 生命環境産業振興協議会

協力: SBN



3 組織運営報告

3.1 会員について

現状の会員数は以下の通りである。

4月からの新事業開始に伴い、会員は、パートナー企業という名称という名称に変更される。

会員種別	数
法人会員A	7社 (昨年度6社)
法人会員B	14社 (昨年度14社)
個人会員	25口 (昨年度19口)

3.2 広報・PR

メールマガジンやフェイスブック等での情報発信を行ってきた。メールマガジン読者は2,995人(昨年度2,990人)、フェイスブック登録者は2,200人(昨年度2,010人)となっている。(2015年3月末)

メールマガジンでは新連載「ソーシャルビジネスがシフトする新しい生き方・働き方」を展開した。

【連続コラム「ソーシャルビジネスがシフトする新しい生き方・働き方」】

回	テーマ
10月前期号	第2回:大場龍夫 評議員(株式会社 森のエネルギー研究所 代表取締役)
10月後期号	第3回:岩坂健志 評議員(株式会社未来思考 代表)
11月前期号	第4回:石田達也 評議員(NPO 法人宮崎文化本舗 代表理事、九州ソーシャルビジネス促進協議会 代表理事)
11月後期号	第5回:川北秀人 理事(IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表者 兼 ソシオ・マネジメント編集発行人)
12月前期号	第6回:横石知二 理事(株式会社いろいろ 代表取締役社長)
12月後期号	第7回:樋口哲朗 アドバイザー(樋口公認会計士事務所 所長 公認会計士)
1月前期号	第8回:鈴木均 理事(株式会社国際社会経済研究所 代表取締役社長)
1月後期号	第9回:染谷ゆみ フェロー(TOKYO 油田 2017 プロジェクトリーダー 株式会社ユーズ 代表取締役)
2月前期号	第10回:佐野一郎 フェロー(NPO 法人じぶん未来クラブ 代表)
2月後期号	第11回:関正雄 理事(損保ジャパン日本興亜株式会社 CSR 部 上席顧問)
3月前期号	第12回:林眞一 フェロー(まるは油脂化学株式会社 代表取締役)
3月後期号	第13回:鈴木亨 理事(特定非営利活動法人北海道グリーンファンド 理事長 兼事務局長)

3.3 定例会議

計画に基づき定例会議を開催した。

【開催日程】

種別	開催日時 (開催場所)	議題	参加者 (定足数)
経営会議 (第17回)	2015年11月10日(火) 18:30～21:30(事務局会議室)	新規事業計画、体制及び事業収支、総会での協議事項	藤田和芳代表理事、熊野英介副代表理事、町野弘明専務理事、海津歩常務理事
理事会・社員総会	2015年12月11日(金) 16:00～18:00(株式会社国際社会経済研究所会議室)	第1号議案:定款変更について 第2号議案:人事について 第3号議案:平成26年度事業活動報告 第4号議案:平成26年度事業収支報告 第5号議案:平成27年度事業活動計画 第6号議案:平成27年度事業収支計画	社員 96名中、出席 21名、委任 30名、計 51名
SBN 特別プロジェクト委員会 (SHIFT ボード会議)	2016年3月16日(水) 18:00～19:00(事務局会議室)	SBN 特別プロジェクト委員会 (SHIFT ボード会議)について、メンバー挨拶、「SHIFT lab」事業展開と進捗について	藤田和芳代表理事、熊野英介副代表理事、町野弘明専務理事、植木力常務理事、海津歩常務理事、川北秀人理事、鈴木均理事、秋尾晃正フェロー、樋口哲朗フェロー、鈴木亨理事、河野通洋フェロー、高津玉枝フェロー
経営会議 (第18回)	2016年3月16日(火) 19:00～21:00(事務局会議室)	人事、体制、規約、事務局体制、株式会社シフトについて、アライアンス、スケジュール及び事業推進について、収支について	藤田和芳代表理事、熊野英介副代表理事、町野弘明専務理事、植木力常務理事、海津歩常務理事